

Monthly Letter



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)
『地域創生の担い手を育み活気あふれるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学

第2回ふくいCOC+事業推進協議会を開催

「第2回ふくいCOC+事業推進協議会」が2月13日開催されました。

委員全員出席(代理出席1名)のもと、平成28年度事業実施状況、平成29年度事業計画(案)、予算配分方針(案)について福井大学の事務局から説明があり、協議後、承認されました。

なお、事業の実施状況、計画について、委員から「学ぶ趣旨やCOC+の目的を実現化するためには、さらに事業を具体化することが必要ではないか。」「学生に対する調査・反応の結果を見ながら、受講したいものや、各大学の学生が集まって受講して良かったというものを企画してはどうか。」「学生が盛り上がり、福井に残りたいという気持ちが持てるよう、産学官で知恵を出し合うのが良いのではないか。」「各病院が連携することによって、研修医のマッチング数を増加することもCOC+の取組みとなるのではないか。」「県としても学生の県内定着に向け、支援していきたい。又、Fスクエアを中心にして学生が集まることを期待している。」などの意見が出されました。

これらのご意見を踏まえて、今後、事業を推進していく予定です。



第2回ふくいCOC+事業推進協議会の様子

原子力技術分野WG

エネルギー関連施設見学研修

1月31日から2月1日までの2日間、44名(福井大8名、福井工大等36名)が参加し、福井県及び岐阜県のエネルギー関連施設を見学しました。

初日は、福井県敦賀市にある高速増殖炉「もんじゅ」を見学しました。まず展望台にて施設全体の説明があり、続いてナトリウム関連施設へ移りました。ここでは、ナトリウム金属を用いた簡単な実験を体験し、ナトリウムの性質を深く理解することができました。さらに実習訓練中の制御室を見学した後、模型を用いたもんじゅ施設全体の概要の説明を受けました。

翌日は、岐阜県の施設2か所を見学しました。1か所目の土岐市の核融合科学研究所では、3班に分かれて施設内を回りました。まず、発泡スチロールに超伝導体を取り付けた模型電車を用いて、核融合技術に必要な超電導状態の実演が行われました。次に、模型による核融合装置全体の説明を受けました。研究に用いられている実物の装置は残念ながら見学することはできませんでしたが、1/10程度のサイズの模型や、過去に使われていた核融合装置の展示を用いた説明がありました(写真1)。1/10といっても大変巨大な装置であることがわかるかと思います。



写真1 核融合科学研究所における模型を用いた装置説明の様子

2か所目は瑞浪市にある瑞浪超深地層研究所を見学しました。地下500mまで5分程度かけてエレベーターで降り、坑道の様子を視察しました。ここでは、断層の様子や地下水水圧、坑道での水漏れについての説明を受けました。普段見ることができない深い地下の世界に、皆興味津々の様子でした(写真2)。

今回の見学では現場の様子に直に触れることができ、留学生を含む他大学の学生、教員と意見交換ができたことは学生にとっても大変刺激になりました。今後の原子力人材の育成においても大変有意義なものであり、机上では学ぶことのできない体験を通じて、日々の取り組みの幅を広げることが期待できるでしょう。



写真2 瑞浪超深地層研究所における地下500m地点での見学の様子 (福井大学 原子力安全工学分野 特命助教 中島恭平先生より寄稿いただきました。)

経営者協会と県立大、「海外インターンシップ研修」を実施 ～タイ・カンボジア・ベトナムを訪問～

福井県立大学は2月16日から26日まで、「海外インターンシップ研修」を行いました。この研修は、県立大学の地域経済研究所と国際交流室が協力して実施しており、今回は3回目となります。タイ、カンボジア、ベトナムの3カ国を訪問し、福井県からの進出企業をはじめ、各国に進出している日系企業や支援機関を訪問し、現地での業務の状況や課題を聞き、製造企業では工場、流通企業では販売現場を見学し、海外での事業の取り組み方・進め方を学びました(参加者:福井県立大学生11名 福井大学生1名)。

今回は初めて福井県経営者協会との合同実施とし、23日から26日までのベトナムでの研修は、同協会の方々と一緒に行いました。学生は、普段接することの少ない福井県の経営者の方々とお話をする機会を得て、経営者の見方や考え方を知ることができました。

研修を通じ学生は、所得水準の違い(一人当たりGDPは、タイ5,662ドル、ベトナム2,164ドル、カンボジア1,228ドル)や進出企業数(現地日本商工会議所会員数は、タイ1,639社、ベトナム1,491社、カンボジア204社)などに差がある3カ国の特徴、そして、国や業種ごとの違いや共通点などに気づいたようです。訪問先の質疑応答時には「材料や部品の調達はどこから」「従業員の育成で力を入れている点は」「賃金上昇への対策は」など、積極的に質問していました。



福井県からの進出企業での事業説明(前田工織株式会社様)

特に、日程の後半では「前の訪問先の企業ではこういう話をお聞きしましたが、御社ではいかがですか」といった質問が増えました。企業活動の現場を見て話を聞くことによって、知識を得ただけでなく、自分の中にそれぞれの関心や疑問が生まれてきたようです。こうした関心や疑問を、今後大学で学ぶ際や、キャリアを考える時にも生かしてほしいと期待しています。

県内の学生には、このように普段の生活空間から一步踏み出し、海外をはじめ未知の場所に足を運んだり、未経験のことに取り組んだりする機会を少しでも多く持つてほしい、と願います。自分により影響を与える、新しい気づきがあるはずです。

(福井県立大学 地域経済研究所 准教授 松尾修二先生より寄稿いただきました。)



福井県からの進出企業の工場見学(セーレン株式会社様)

留学生 定着WG

「福井で働く卒業留学生と在学留学生との交流会」を開催

留学生定着WGの取組みとして、2月12日、Fスクエアにおいて26名が参加し「福井で働く卒業留学生と在学留学生との交流会」が開催されました。

県内の大学を卒業し地元企業に定着している先輩から在学留学生に対して、海外に拠点を持つ企業において留学生の活躍の場があることや、留学生だからということでは無く、複数の言語を理解しこの地域に学ぶ学生として積極的にインターンシップ等に参加し福井での就職活動に取り組むことにもエールが送られました。

学生からも、日本企業で働くこと、福井で生活することについて先輩から本音が聞けて参考になり、自分も頑張りたいという声が聞かれました。



「福井でかなえるDream」に掲載されました。

福井県内に通学している高校2年生へ配布される「福井でかなえるDream」に「活気あふれるふくいを創造する5大学連携事業(COC+)」が掲載されました。ふくいCOC+ホームページのお知らせから閲覧可能です。是非チェックしてみてください。<http://www.alfukui-cocp.jp/news/>
「ふくいCOC+ホームページ お知らせ」(こちら→)



編集後記

COC+事務局スタッフ中垣です。私は昨年4月からこの仕事に携わって参りましたが、本年4月からは新たな福井の職場に定着する社会人としてCOC+事務局を卒業します。1年前の学生の頃には想像もできなかった社会人の世界で、色々な経験をさせて頂きました。楽しいこともそうでないこともすべてが新鮮で、この1年があつと言う間に過ぎました。この経験を糧に、立派な社会人になれるように精進して参ります。お世話になった皆様、今まで本当にありがとうございました。(中垣)